



京都市伏見区 雇用就農→独立自営 野菜(オクラ、トマト、ナス等)栽培
黒川尚輝さん 2019年3月卒業 黒川杏海さん 2020年3月卒業

仲間と学び成長した経験が未来を切り拓く

尚輝さん: 祖父に勧められたことをきっかけに農業に興味を持ち、農業高校に進学しました。卒業後もさらに専門的に学びたいと考え、農業大学校へ進学しました。入学前は寮生活に不安もありましたが、仲間にも恵まれ次第に慣れました。在学中、印象に残っているのは、農業機械の操作を学び、大型特殊自動車運転免許や農業機械士の認定を取得できたことです。また、同級生や先生方とのつながりは卒業後も続いており、今でも私にとって大切な財産となっています。

杏海さん: 小学生の頃から農家になることが夢で、農業高校卒業後にさらに専門的に学びたいと考え、実家の福井に気候も比較的に似ている京都の農業大学校へ進学しました。在学中はビニールハウスを1棟任され、栽培計画から管理まで主体的に取り組んだことで、責任感と実践的な栽培技術を身に付けることができました。また、京野菜など多様な作物に触れ、自分の知らない農業の世界の広さを実感しました。仲間とともに学んだ経験は、現在の農業経営にも生かされています。

自ら動き学ぶ環境が進路実現への力に

尚輝さん: 1年生の秋に2週間、農家派遣実習があったのですが、農業の知識や経験がまだ十分でない中でも、受入農家の方に教えていただきながら、実際の農作業を経験することができました。実習先が卒業後の就職先につながる学生もいました。

私が、株式会社京都杉田農園に就職したのは、農家派遣実習に行っていた同級生から紹介してもらい、一緒に見学へ行ったことがきっかけです。見学の連絡は自分たちで取りましたが、必要な時は先生に相談し、就職先との間を取り持ってもらうこともできました。自分で動きながら、周りに相談できる環境があったことは良かったです。

杏海さん: 在学中に、府内の様々な農業法人の話を聞ける機会があり、興味を持ったところには実際に体験に行くこともできました。学校には求人票も届くので、色々な就職先を知り、選択肢を広げることができました。

学びと経験を重ね夫婦で築く農業経営

尚輝さん:卒業後は京田辺市にある株式会社京都杉田農園に就職し、トマトの栽培に携わりました。その後、黒川農園を立ち上げ、現在は夫婦で農作業を行っています。栽培面積も少しずつ広がっています。新鮮な野菜を地域の方に食べてもらいたいという思いで、日々、「どうしたら良いものを作れるか」を考えながら、栽培に取り組んでいます。

杏海さん:卒業後は、すぐに独立するのではなく、まずは農業の現場で働きながら勉強したいと考え、精華町にある「なかがわファーム」に就職しました。知り合いのいない土地で働くことに不安もありましたが、職場の方々にも恵まれ、毎日の仕事に取り組むうちに、新しい環境に慣れていきました。その後、尚輝さんと結婚して黒川農園で農業に携わるようになり、現在は子育てと両立しながら、家族で協力して農園を営んでいます。

消費者の笑顔が支え！農業のやりがい

尚輝さん:自分たちが作った野菜を「おいしい」と言ってもらえることが、一番のやりがいです。「ここで買った野菜を食べると、他では買えない」と言ってくれる方もいて、農業をやっている良かったと思います。一方、気候などの栽培環境は年々変化しており、肥料の使い方一つをとっても、「絶対にこの方法が正しい」というものはありません。分からないことは自分で調べながら、様々な方法を試しています。今後は、より良いものを消費者の方に届けながら、経営規模を広げていきたいです。

杏海さん:小さな種から芽が出て、作物が少しずつ成長していく姿を見ることが楽しいです。無事に収穫できた時はとても嬉しいです。一つの品目の栽培が終わっても、また別の品目で、作物の成長や収穫の喜びを感じることができます。様々な野菜の栽培を通じてそうした喜びが続いていくことが、農業の魅力だと思います。

安心して学べる環境で農業の力を身につける

尚輝さん:農業大学校のある綾部は自然が豊かで、少し足を延ばせば市街地にも行けるので、生活に困りません。農業大学校では、栽培技術や機械操作など、農業に必要なことを一通り経験できます。農業大学校に興味がある人は、まずはオープンキャンパスなどに参加して、学校の様子を実際に見てみてほしいです。

杏海さん:農業大学校は実習が多く、実践的に学べます。学生の自主性を大切にしてもらえ、のびのびと学べる環境が魅力だと思います。一人で黙々と作業をするのが好きな人も、皆でわいわい取り組むのが好きな人も、「農業をやりたい」という気持ちがあれば大丈夫です。周りには仲間もいます。